

2009年5月14日

(これは、ロンドンにて5月5日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータード銀行は、本日付で、2009年度第1四半期に関する中間期経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

本年度第1四半期は、収利益ともに過去最高益を更新することができました。厳しいマクロ経済環境下、金融市場の混乱の中にあって、当行グループの事業基盤は大変良好であり、主要事業の拡大を続けています。

コンシューマーバンキング部門の業績は、第1四半期の収益が月平均ベースで前年度下半期より下回ったものの、前四半期比ではわずかに上回るレベルで推移し、同事業部門の底力を示しています。

住宅ローン事業の業績は、特に香港、シンガポール、台湾、インドにおいて引き続き収益改善がみられたこと、その中でも韓国において取引量が増えたことから堅調なものとなりました。中小企業向け(SME)金融事業の収益は融資という同事業の性質や、政府担保付融資スキームにさらに多くのSMEビジネスを組み込み担保付融資商品の比重を高めたことで、わずかながら減少しました。富裕層向けウェルスマネジメント事業の収益は順調に推移しているものの、直近の見通しについては留意を続けていく所存です。また、一部市場に混乱が見られることから、投資家信頼感指数が下ブレ傾向にあるとともに、利幅確保が低金利の波を受けて、引き続き難しい状況にあります。今後も顧客預金高増加のため、預金商品への資金フローの拡大を図ってまいります。

コンシューマーバンキング部門は、これまで数値面で厳しいコスト・人員管理を行うとともに、商品・業務プロセスの簡素化、コールセンターの統合を推進してまいりました。その結果、第1四半期については前年度下半期より、月平均で10%以上のコスト削減を達成しています。

貸出資産の質については予想範囲内に留まっているものの、今後も引き続き担保資産に注力してまいります。第1四半期の減損分については、すでに提出済みのガイダンスに沿ったものとなっています。

ホールセールバンキング部門は、今年も好調なスタートを切りました。収益は前年度比で大幅な増加傾向にあり、顧客からの収益も堅調な伸びを示しています。同部門はグループ全体の収益を創出する一番の担い手となっています。また、今四半期計上の収益も堅調な伸びをみせています。

業界でも群を抜く同部門のクロスボーダー取引を「てこ」とし、引き続き市場シェア拡大を図っています。特に、トレードファイナンス事業は過去最高収益を記録し、大変好調に推移しています。主なコマースバンキング業務であるキャッシュマネジメント、トレードファイナンス、それに伴う為替ヘッジ取引は引き続きホールセールバンキングビジネスの根幹となっていますが、高い純金利収益率とスプレッドを反映し、取引量減少分を埋め合わせても余りある好業績の計上に結びつきました。

同部門の底堅い業績は、概ね顧客取引フロー、金利・FX取引の効率的なポジション運用によるものです。ALM(資産負債管理)事業についても、世界各地のグループ事業拠点において高い流動性レベルを保持しているのみならず、上昇局面にあるイールド(利回り)カーブを反映し、素晴らしい業績となっています。

コーポレートファイナンス事業も、今四半期、数々の大型取引を獲得し、大変堅調な業績を計上することができました。また、取り組み中のプロジェクト取引についても堅調です。

市場が混乱し、不確実な様相を見せる中、法人向け融資に関する貸出資産の質は引き続き良好であり、減損額は現時点で低いレベルに留まっています。企業業況への警戒感から、関連指標に初期の警戒レベルといえる兆候が現われ始めていますが、未だに業種、地域国を特定するまでには至っていません。

現在手持ちの資産担保型証券(ABS)の償還は順調であり、帳簿価格も38億ドル(2008年12月31日現在)から34億ドル(2009年第1四半期末現在)にまで減少しています。

総じてホールセールバンキング部門は、第1四半期、市況が激しく変動する中においても卓越した業績を上げることができました。

当行グループは、潤沢な資本力を有しておりますが、引き続き資本構成比率の改善を図ってまいります。また同様に、慎重な自己資本比率の管理を実施する所存です。

4月6日付で公表のTier 2債買取および交換取引を終了し、8% Lower Tier2劣後債(7億ドル相当)の24%および5.375% Upper Tier 2劣後債(6億7,500万ポンド相当)の42%を取得いたしました。そのため、第2四半期には、税引き前利益として2億4,800万ドルが認識されます。2008年12月31日付での本取引完了により、主要Tier1は10ベースポイント強、上昇しました。

当行グループは、底堅い預貸率(2008年度末現在)により高い流動性を保持し、預金高も引き続き増加傾向にあることから、引き続きインターバンク市場で高い資金放出ポジションを保持しています。

世界市場での不確実性が高まる中、スタンダードチャータード銀行は、第1四半期も収利益ともに最高益を更新し、今年も好調なスタートを切ることができました。バランスシート管理に関しては、今後もさらに慎重かつ積極的なアプローチを取るとともに、高い自己資本・流動性の保持に努めてまいります。

次期業務予測については、6月の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations +44(0)20 7885 7245  
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia +852 2820 3958

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行 コーポレートアフェアーズ部 部長  
クリストファー・ドミター

Tel: 03-5511-1361 / Fax: 03-5511-9333

[Christopher.Domitter@sc.com](mailto:Christopher.Domitter@sc.com)

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。